

坂 昌樹准教授略歴

- 1953年 6月 名古屋市に生まれる
- 1960年 4月 名古屋市立名城小学校入学
- 1966年 4月 名古屋市立丸の内中学校入学
- 1969年 4月 愛知県立明和高等学校入学
- 1972年 4月 名古屋大学経済学部経済学科入学
- 1978年 3月 名古屋大学経済学部経済学科卒業
- 1978年 4月 名古屋大学大学院経済学研究科前期課程進学
- 1981年 3月 名古屋大学大学院経済学研究科前期課程終了
- 1981年 4月 名古屋大学大学院経済学研究科後期課程進学
- 1981年 8月 フライブルク大学（ドイツ）哲学部留学
（1983年 4月より、フライブルク大学哲学部博士課程進学）
- 1989年 5月 フライブルク大学哲学部博士課程単位取得後、帰国
- 1990年 3月 名古屋大学大学院経済学研究科後期課程満了
- 1990年 4月 愛知教育大学、名古屋工業大学、名城大学非常勤講師（1994年 3月まで）
- 1991年 4月 名古屋大学経済学部助手（1993年 3月まで）
- 1994年 4月 桃山学院大学文学部講師
- 2001年 4月 桃山学院大学文学部助教授
- 2002年 4月 桃山学院大学経済学部助教授
- 2007年 4月 桃山学院大学経済学部准教授
- 2007年 4月 永眠（享年55歳）

坂 昌樹准教授主要業績目録

著 書

- 1991年 5月 『社会思想史への招待』（水田洋ほか編）部分執筆 北樹出版
- 1996年 1月 『社会経済学の視野と方法 ―ドイツと日本―』（八木紀一郎，真継隆編）
第一章「経済学への未展開 ―カントの『人倫の形而上学』における所有権論の問題―」（21-44頁）：執筆 ミネルヴァ書房
- 2002年 9月 『藤澤道郎の「名画で綴るイエスの生涯」』（村山高康，暇絵理と共編）藤澤道郎先生追悼の会 B 6 版 98頁

翻 訳

- 1992年 3月 『EC 市場統合とドイツ統一』（真継隆ほか編著）第 2 部
第 7 章 R. ケーグララー著「スイスの視点から見た EC 域内市場 ―問題と対応およびチャンス―」（115-125頁），第 4 部
第 14 章 E. ホップマン著「道徳と経済システム」（267-281頁） 名古屋大学
- 1996年 1月 『社会経済学の視野と方法 ―ドイツと日本―』（八木紀一郎，真継隆編） テオドール・ダムス著「固有の学問分野としての『経済政策の理論』をめぐる討論」（217-235頁）
ミネルヴァ書房

論 文

- 1990年 1月 「Rotteck und die Französische Revolution」『経済科学』

- 37巻3号 pp43-86
- 1991年1月 「ドイツ社会契約論の最終形態 -カール・フォン・ロテックのゲマインデ論- (上)」『経済科学』38巻2号 pp73-94
- 1991年1月 「ドイツ社会契約論の最終形態 -カール・フォン・ロテックのゲマインデ論- (下)」『経済科学』38巻3号 pp97-111
- 1992年8月 「Heinrich Luden (1778-1847), ein Vorläufer der liberal-nationalen Geschichtsauffassung (1. Teil)」『経済科学』40巻1号 pp1-18
- 1992年10月 「クライストの小説「ミヒャエル・コールハース」における抵抗の問題 -歴史的観点からの作品論として-」『ドイツ文学研究』24号 pp13-31
- 1993年3月 「Heinrich Luden (1778-1847), ein Vorläufer der liberal-nationalen Geschichtsauffassung (2. Teil)」『経済科学』40巻4号 pp31-50
- 1993年9月 「Heinrich Luden (1778-1847), ein Vorläufer der liberal-nationalen Geschichtsauffassung (3. Teil)」『経済科学』41巻1号 pp87-111
- 1998年9月 「啓蒙の「学識」と「公・私」のヤヌス」『国際文化論集』18号 pp69-89
- 1999年3月 「ドイツ啓蒙と大学 -ゲッティンゲン大学哲学部の場合-(1)」『桃山学院大学総合研究所紀要』24巻3号 pp177-195
- 2000年3月 「ドイツ啓蒙の実用主義について」『国際文化論集』21号 pp189-267
- 2000年12月 「シュテファン・マイネケ著 ドイツにおける学者による政治の基本線1830-1933 概論の試み」：翻訳 『国際文化論

- 集』22号 pp171-212
- 2001年3月 「ドイツ官房学小史 - 展望(上) -」『経済経営論集』42巻4号 pp155-190
- 2003年9月 「ドイツ啓蒙とその「内部」」『社会思想史研究』27号 pp136-150
- 2005年8月 「事例紹介 桃山学院大学における国際交流の現状と課題(特集 大学間交流の展望)」『留学交流』17巻8号 pp10-13

書 評

- 1996年7月 Klaus Hammacher u. Hans Hirsch 著 『Die Wirtschaftspolitik des Philosophen Friedrich Heinrich Jacobis』日本18世紀学会年報11号 pp58-59
- 1997年11月 Fania Oz-Salzberger 著 『Translating the Enlightenment.: Scottish Civic Discourse in Eighteenth Century Germany』経済学史学年報35号 pp184-185
- 1998年7月 Gerhard Streminger 著 『Der natürliche Lauf der Dinge. Essays zu Adam Smith und David Hume』日本18世紀学会年報13号 pp19-20
- 2000年7月 Volker Baue 著 『Hofökonomie Der Diskurs über den Fürstenhof in Zeremonialwissenschaft, Hausväterliteratur und Kameralismus』日本18世紀学会年報15号 pp42-43
- 2001年6月 Notker Hammerstein 著 『Universitäten und Aufklärung』日本18世紀学会年報17号 pp56-57
- 2002年6月 岡崎勝世著 『キリスト教的世界史から科学的世界史へ』日本18世紀学会年報18号 pp53-54

学会展望

- 1999年7月 「ドイツ・オーストリア18世紀学会の第1回合同大会に参加して (1. Bilaterale Tagung der Deutschen und Österreichischen Gesellschaft für die Erforschung des 18. Jahrhunderts) に参加して」『日本18世紀学会年報』14号 pp68-70
- 2003年6月 「ドイツ・オーストリア18世紀学会の第2回合同大会に参加して」『日本18世紀学会年報』18号 pp75-76
- 〔口頭報告〕
- 1996年 「Die Rechtsphilosophie Kants als ein Ansatz der modernen Sozialwissenschaft in Deutschland」Transactions, III Oxford pp1190-1194
- 1999年10月 「18世紀ドイツの実用主義と功利について」『社会思想史研究』24号 pp48-50